

合鴨鍋や入浴剤、足湯などを提供 “身も心も温まる” 支援で 仮設住宅の人びとに笑顔を！ コープいしかわ



温かい足湯とマッサージを楽しみにしている人は多い。

温かい足湯に、仮設住宅にお住まいの皆さんの笑顔が広がる。隣で作っている入浴剤は、足湯に入れるといい香り。外では、珍しい合鴨鍋あいがもが振る舞われ、大好評だ。

コープいしかわでは11月19・20日に、7回目となるバスボランティアを岩手県陸前高田市広田地区にある二つの仮設住宅で実施。役職員や組合員19人に加え、金沢大学・足湯ボランティアサークルの学生40人が参加した。

今回のボランティアでは、津波で被災したメーカーである(株)アマタケ(本社・大船渡市)の「岩手合鴨鍋セット」を用いた炊き出しや、集会所での入浴剤作りや掲示板作り、足湯の提供と、盛りだくさんの支援が行なわれた。総合企画部の

たかぼたけゆたか高畠寛さんは、「被災された方と直接触れ合い、少しでも元気になってもらえる支援をしたいんです」と話す。

炊き出しを行っていたコープいしかわの組合員、わたなべ渡辺ひろみさんは、「陸前高田市に来たのは初めてです。がれきの片付けは難しくても、炊き出しなら私にもできます。合鴨は岩手県産なのに、皆さん鴨鍋を食べたことがないそうです。珍しいだけでなく『とてもおいしい』と喜んでくださっているのを肌で感じることができました。炊き出しを通じて、被災された方々とさまざまなお話をすることができたので、参加してよかったです」と話していた。

また、足湯の提供は、コープいしかわが継続して行っている取り組

みの一つだ。組合員たちは、足湯ボランティアサークルのメンバーからのアドバイスを受けながら、被災された方の手足をマッサージし、被災当時のつらかった話を聞いたり、お互いの身の上話をしたりしていた。このように、じっくりと話を聞いてもらえるということで、この足湯を楽しみにしている人も多くいるという。

上記活動のほかにも、前回ボランティアに訪れた際に仮設住宅居住者の方からお聞きした声を受け、石川県内の協力団体から寄せられた冬物衣料(古着)を段ボール30箱分持参。多くの方に喜ばれた。

相手の心に寄り添って考え、行動する。こうした積み重ねが、被災された方の笑顔へとつながっていくのだろう。



合鴨鍋に加えて、組合員が心をこめて作ったおにぎりも提供。



チラシなど案内を張るためのものがなかったことから、掲示板を手作りして、設置。仮設住宅にお住まいの方(右より2・3人目)に喜んでいただくことができた。